

糖尿病で血糖値を下げる薬を内服している患者さんへ

「糖尿病治療薬 SGLT2 阻害薬に関連した術後ケトアシドーシスに関する多施設共同
前向き観察研究 SAPKA Study」へのご協力をお願い

糖尿病治療薬には様々な種類がありますが、最近 SGLT2 阻害薬と呼ばれる比較的新しい種類の薬が処方されることが増えています。この薬は尿に糖を出すことで血糖値を下げますが、体調の悪いときや食事をあまり食べないでこの薬を飲むと、血液が酸性になる「ケトアシドーシス」という状態になることが知られています。手術前後は食事を食べることができないため手術を受ける患者さんではケトアシドーシスを生じる可能性があります。術後にどのくらいの患者さんでケトアシドーシスが生じるかはこれまで調べられていません。当院では全国の大学病院と共同して、SGLT2 阻害薬を内服している患者さんで、術後どのくらいの割合でケトアシドーシスが生じるかを調べています。

この研究は杏林大学医学部倫理審査委員会審査、承認された後、医学部長の許可を得て行われています。(承認番号: 785) 研究にご協力いただける方では、手術当日～術後3日目まで、1日1回(合計4回)尿検査を行います。尿中にケトン体という物質が検出された場合は採血を行い血液の状態を調べます。その他、カルテ上の情報を個人を特定できない形で利用させていただきます。得られたデータは、他の施設の患者さんのデータとともに杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室で解析を行い、国内外の学会および医学専門誌で発表を行う予定です。SGLT2 阻害薬を内服している方には麻酔科医から研究についての説明をさせていただきますので、周術期管理センターを受診される際にお申し出下さい。

以下の薬のうちのどれかを内服している方は、診察の際に麻酔科医にお申し出下さい。

- ・アプルフェイ錠
- ・カナグル錠
- ・カナリア配合錠
- ・ジャディアンス錠
- ・スーグラ錠
- ・スージャヌ錠
- ・デベルザ錠
- ・トラディアンス配合錠
- ・フォシーガ錠
- ・ルセフィ錠

研究責任者
杏林大学医学部麻酔科学教室
准教授 関 博志